

第2期 富山県食育推進計画の見直しについて(案)

推進のポイント 推進事項

I 富山の「食」に着目した富山型食生活の推進

1 富山型食生活の普及など県民運動の展開

2 地産地消の推進

3 魅力ある食文化の継承・創造

II 家族そろった楽しい食事で健全な食生活の実現

4 家族そろった健全な食生活の実現

5 保育所・幼稚園・学校等における食育の推進

III 家庭を中心とした食育を地域社会でもしっかりと支援

6 地域で支えあう食育の推進

7 食の安全確保

第2期 県食育推進計画の期間 ⇒ H24年度～H28年度

目標指標の進捗状況

(注) 目標達成: ☆ 基準年より改善: ○ H28県民健康栄養調査で今後評価する: -

目標指標(16指標)	H22(基準)	H27	目標値	評価
○「食育」に関心がある県民の割合	94%	95%	95%以上	☆
○カロリーやバランスを考えた食事をする県民の割合	31.2%	43%	60%以上	○
○富山型食生活を実践している県民の割合(成人)				
・1日に1回以上ご飯を食べる	98.5%	②98.5%	100%	-
・野菜料理を1日に小鉢5皿程度とる	30.7%	②30.7%	50%以上	-
・魚介類を1日に1回食べている	67.3%	②67.3%	80%以上	-
○県産食材の生産拡大(野菜・いも類産出額)	53億円	②55億円	65億円	○
○直売所及びピンショップ販売額	20.8億円	34.8億円	28億円	☆
○地産地消「とやまの旬」応援団登録者数	2,106	4,110	6,000	○
○「とやま食の匠」認定数	146	167	180	○
○ふるさと認証食品	288商品	313商品	300商品	☆

○朝食を欠食する子どもの割合(小学校5年生)	0.8%	0.8%	0%	
(中学校2年生)	1.9%	1.7%	0%	○
○朝食を欠食する若者の割合(20歳代)	5.4%	②5.4%	5%以下	-
(30歳代)	5.2%	②5.2%	5%以下	-
○家族で食事(朝食また夕食)をとる県民の割合	89.8%	89.1%	95%以上	
○農林漁業体験・調理体験を実施している学校の割合	100%	100%	100%	☆
○学校給食における地場産食材の割合	30%以上	30%以上	30%以上	☆

○栄養バランスの改善度合(成人)				
・脂肪からの摂取エネルギー比率(20歳代)	28.0%	②28.0%	20%以上	-
(30歳代)	26.6%	②26.6%	30%未満	-
・食塩の1日当たりの摂取量(男性)	12.2g	②12.2g	9.0g未満	-
(女性)	10.5g	②10.5g	7.5g未満	-
○肥満者の割合(20～60歳代男性)	32.6%	②32.6%	23%以下	-
やせの割合(20～30歳代女性)	18.4%	②18.4%	15%以下	-
○食品表示が適正な店舗の割合	95.2%	96.8%	100%	○

【次期計画】

- ・名称(案) ⇒ 第3期富山県食育推進計画
- ・期間(案) ⇒ H29年度～H33年度

課題とさらなる推進

○『カロリーやバランスを考えた食事をする県民』は、増加はみられるものの目標に達していない ⇒ 「富山型食生活」の普及など、食育の実践に向け、県民運動の一層の推進

○直売所等の支援、学校給食への食材提供支援、地産地消応援団の登録など、県民の地産地消の気運向上に取組んできたが、一層の県産食材の供給が求められている。 ⇒ 県産食材の生産拡大を含めた地産地消の更なる推進

○「とやま食の匠」の派遣や食改員による郷土料理講座開催の支援による食文化の継承、女性起業組織等への支援などによる新たな食文化の創造を進めてきたが、若者世代への食文化の継承を図る必要がある ⇒ 食文化の継承を引き続き推進

○『朝食を欠食する子どもの割合』は、改善はみられるものの、目標に達していない。また、『家族で食事(朝食また夕食)をとる県民の割合』は、減少傾向。子どものころからの正しい食生活の習慣化が大切であることから、家族を含めた健全な食生活の推進が必要 ⇒ 子どもや保護者世代への更なる食育の推進

○『食品表示が適正な店舗の割合』は、わずかな増加にとどまっている。 ⇒ 県民が安全な食品を選択できるよう、引き続き食の安全確保を推進

食をめぐる現状

○若者の食に対する意識の低迷
・カロリーやバランスを考えた食事実施
全体 : 43%
20～30代 : 36%

・毎日朝食を食べる
全体 : 83%
20～30代 : 64%
(H27食に関するアンケート 農林水産企画課)

○生活習慣病の発症・重症化を予防・改善し、健康寿命の延伸を図るための健全な食生活の推進が求められている

[県民の主要生活習慣病死亡率全国順位]
・胃がん 男:18位 女:6位
・脳血管疾患 男:12位 女:19位
[県内の透析患者数]
H22:2,337人 ⇒ H25:2,445人
<食事による予防>
減塩、野菜摂取

○「和食」がユネスコ無形文化遺産登録(2013年12月)

○『食品ロス削減』の推進に関する新たな取組み

2015年9月国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択
⇒ 『2030年までに小売り・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる。』

↓
2016年5月15、16日G7富山環境大臣会合で「富山物質循環フレームワーク」採択
⇒ 『食品ロス・食品廃棄物の削減、食品廃棄物の効果的な再利用などの取組みを着実に実施』

国の第3次食育推進基本計画 【計画期間:H28～H32】

※【具体的な施策】の項目は、第2次基本計画と同様だが、「食をめぐる現状」を踏まえて、以下の【重点課題】を設定し、内容を改訂

【具体的な施策】

- 1 家庭における食育の推進
- 2 学校、保育所等における食育の推進
- 3 地域における食育の推進
- 4 食育推進運動の展開
- 5 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
- 6 食文化の継承のための活動への支援等
- 7 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

【重点課題】

- 1 若い世代を中心とした食育の推進
- 2 (新)多様な暮らしに対応した食育の推進
- 3 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 4 (新)食の循環や環境を意識した食育の推進
- 5 (新)食文化の継承に向けた食育の推進

第3期富山県食育推進計画の方向性(案)

1 本県の課題、食育指導者のご意見及び国の動向(第3次基本計画等)を踏まえ、以下の事項について重点的な取組みを推進

- [重点対象]
・子どもや若者世代
- [取組事項]
①栄養バランス改善など健康を意識した食生活の推進
②地産地消の推進
③食文化の継承

2 また、食育推進の新たな視点として本県の新たな取組みを追加

- ①健康寿命の延伸につながる食育の推進
- ②食品ロス削減に向けた食育の推進

[参考:本県の新たな取組み]
・健康寿命日本一推進会議の設置
・食品ロス削減庁内プロジェクトチームの設置

3 【推進のポイント】及び【推進事項】については、これまでの取組みの進捗状況や上記1、2を踏まえ検討

食育推進計画見直しのスケジュール(案)

H28年 6月21日 見直しについて ⇒ 本日
10月頃 骨子(案)の検討
H29年 2月頃 計画(素案)の検討
(3～4月 パブリックコメント)
6月頃 計画の策定

食に関する指導者のご意見

◆食に関する指導者アンケート調査結果[H28.2～3月実施] 調査対象者:263人(栄養士・管理栄養士:68人 食生活改善推進員:88人 栄養教諭・学校栄養職員:49人 農林漁業生産者:14人 その他:44人)

【現在の食育指導の対象】
小学生:69% 地域住民:64%
幼児～高校生の保護者:39%
幼児:36% 中学生:32%
高校生:12% 企業:9%
専門学校・大学生:8%

【現在の指導内容】
栄養バランス改善:79%
調理体験:69%
富山型食生活:63%
食事のマナーや大切さ:55%
地産地消推進:55%
農林水産業体験:14%

【食育推進についての課題】
栄養バランス改善など健康を意識した食生活:63%
郷土料理・食文化継承:50%
地産地消推進:45%
多様な暮らしに応じた食育:42%

※ 複数回答

【今後、推進すべき事項】
栄養バランスの改善:78%
富山型食生活:57%
食事のマナーや大切さ:53%
調理体験52%

【重点的に指導が必要な対象者】
幼児～高校生の保護者:59%
20～30代:49%
小学生:48%
中学生:29%

[現在の食育活動の概要]
・小学生や地域住民を中心に指導を実施
・栄養バランス改善、調理体験、富山型食生活、食事のマナー・大切さ、地産地消などを指導

[今後の食育活動について]
①栄養バランスの改善
②食文化の継承や地産地消
③小学生や20～30代を重点に実施